NPO 法人日本空手松涛連盟静岡県本部

# 静岡松涛タイムス 第 40 号

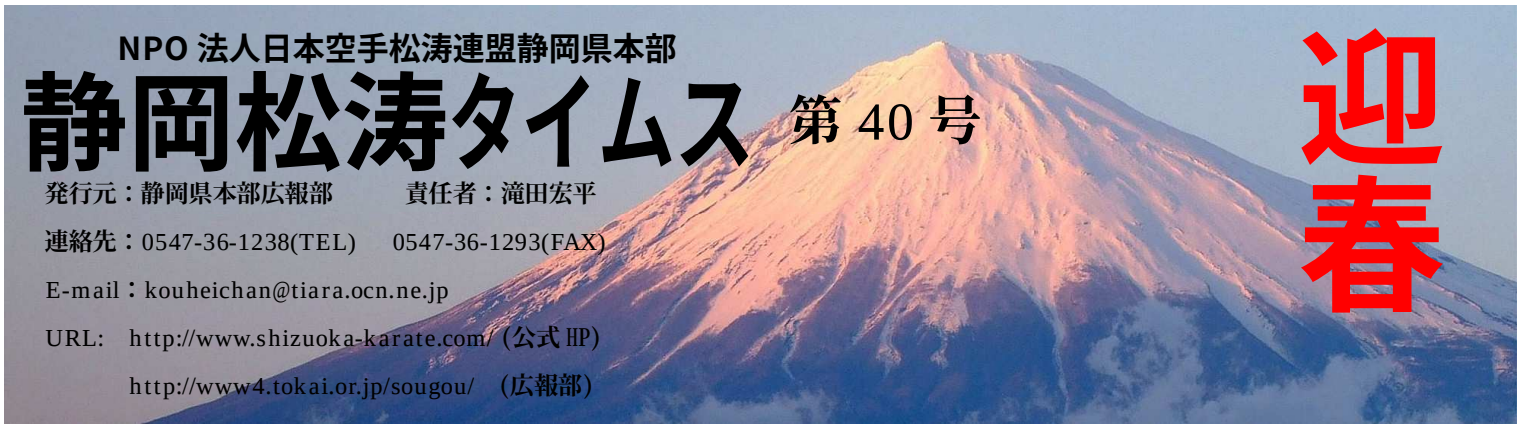
発行元：静岡県本部広報部　　責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL)　0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL:　http://www.shizuoka-karate.com/（公式 HP）

http://www4.tokai.or.jp/sougou/　（広報部）




## ■平成 22 年　年頭所感■

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのことと、謹んでお慶び申し上げます。昨年を振り返りますと、4 月に講習会・5 月は県大会・6 月の昇段審査・7 月の東海北信越地区大会と 1 年間多くの行事をこなしてきました、これもひとえに会員の皆様方の御協力のたまものと深く感謝しております。一方、政治経済は、景気悪化、格差の進展から、自然災害、凶悪事件等、まだまだ減りません、政権が昨年 8 月に交代し我々国民の声が届く政治になるか今年一年が正念場と思います。今年も昇段審査を受審する会員の為に、各支部の技術の差が無い様に昇段審査用の講習会を数多く取り入れ、多数の受審者が合格できるように指導者一同頑張る所存です。そのために必要なｷｰﾜｰﾄﾞは「技術の説得・やる気」と考えます。いくら技術の説明が良くてもやる気がなくては、子供達が持っている、燃えさかるようなエネルギーに灯をともせません。「やらされている」のではなく「やる」と思う心に届くような思いを込める努力が必要でないかと思います。それが指導者のテクニック。そして言葉使いにも気をつけ、子供達が楽しい空手道を身に付けられるよう、心がけることが大切だと思います。今年も昨年同様、会員拡大（車椅子空手）、技術の向上、礼節、人を思いやる心を目標に掲げ皆様と共にがんばりましょう。皆様のご健勝とご多忙を祈念いたしまして、この一年よろしく御願い申し上げます。ここに新年の御挨拶とさせて戴きます。　【日本空手松涛連盟静岡県本部長　稲毛　隆】

## ■平成 22 年静岡県本部新年会■

平成 22 年の静岡県本部の新年会が、1 月 29 日に「ホテルセンチュリー静岡」にて盛大に行われました。当日は、時折り風花の散らつく厳しい寒さでありましたが、県内各地より大勢の関係者が駆けつけました。稲毛隆本部長の新年に向けての抱負と力強い決意の挨拶に続き、国政・県政・市政で活躍中の先生方、総本部理事長の松井武男先生より挨拶を頂いた後、懇親会となりましたが、どのテーブルでも和やかなムードの中、楽しげに会話に花が咲いていました。今年も本新年会をスタートに公式事業が本格始動します。県内各支部が一丸となり、昨年以上の、実りのある素晴らしい一年になることを心より願っております。　(レポート：広報部　秋山高士)

## ■第 10 回静岡県中部地区空手道大会■

平成 21 年 10 月 12 日(祝日)秋空の下、県内有数の名園として知られる「バラの丘公園」に隣接する「島田市中央体育館」にて静岡県中部地区大会が開催されました。大会当日は、多くの来賓様にお越しいただき、盛大なる大会となりました。私は予定より早めに会場入りしたのですが、駐車場に車を停め車外に出たと同時に選手達の気合の入った掛け声が館内より聞こえてきました。早～！凄さに圧倒！空手道大会は、参加選手にとって日頃の稽古の成果が試される最高の舞台です。我が支部からも、入門して間もない選手も頑張って出場しました。中には出場を躊躇する選手もおりましたが、私が最も伝えたいことは、「結果で恥じることはない、恥など自身の生きて行く中のほんの一瞬。そんな小さな事よりも、ありとあらゆる経験を積むことがこれから歩む人生の中で、自身にとって大金を払っても買えない程の宝物になる」という事です。参加した選手の中には、今回はじめて表彰された選手もあれば、惜しくも残念賞

の選手もおりましたが、そこは勝負の場でありますので、七転八起の言葉とおりではありませんが、どん底に落ちても歯を食いしばって這い上がっていく姿、そして目標を達成し勝ち得たことの喜びが、どんなに大きいことでしょう。今回、私は審判員として試合の場に立たせていただきましたが、終始少年選手達の成長に目を奪われていました。正確なる一瞬の突きの素早さに、おもわず BRAVO！と拍手したくなるほど素晴らしいものでした。基本稽古がしっかりとされており、参加したどの選手からも熱い気迫が伝わり、気の緩めない興奮し通しの大会でした。私は空手道の世界に入り、わが身を持っての体験が、どれだけ自分自身を強くしてくれたことか、幾度となく社会生活の中で落ち

込み、挫けそうになった時、空手道に導かれ何度となく精神面で励ましていただいたことか。人生楽をして通ることは簡単ですが、自分自身を追い込み、そして這い上がっていくことができてこそ、人間の痛みや有り難みがわかっていきのだと思います。このような経験は、空手道の世界に入らなければ、到底出来なかったでしょう。そして今ある自分は諸先輩の先生方のご指導の賜だと肝に命じ、感謝の念で一杯です。(レポート：青島支部　三宅静江)

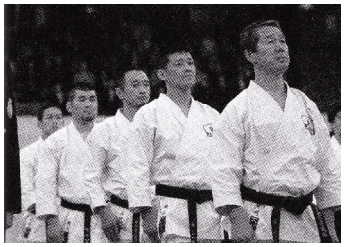
## ■ 静岡県本部技術講習会■

平成 21 年 10 月 18 日有段者は古典型（八門・火手）・有級者は昇段審査のための講習会が静岡県北部体育館で行われました。古典型の八門・火手は大井先生が指導され、有段者は午前中で型をほぼ全部覚えてしまいました。午後は、抜塞大を荒井先生が技の意味・注意点を細かく指導され、参加者も技術力・集中力を発揮し更なる向上を目指し頑張っていました。昇段審査のための講習会では、午前中の基本は菊池伸幸先生が指導され、立ち足から細かく指導され、参加者も「黒帯をとる」という気迫が伝わってくるほど頑張っていました。午後は型で平安型・鉄騎型を望月先生、抜塞大を永嶋先生が指導され、参加者は技の意味や力の強弱を理解し自分に足らないものを習得できたと思います。一日中昇段審査の練習は初めての事と思いますが、この講習会に参加した事により、新たな自分を見いだすことでしょう。　次回の昇段審査では、すばらしい笑顔を期待しています。(レポート：島田支部　置塩大三郎)

## ■東海北信越地区技術講習会・審査会■

晩秋の候、秋の色もようやく深みを増してまいりました。街路樹がすっかり葉を落とし、本格的な冬を迎えようとしている 11 月 8 日(日)に、静岡市北部体育館にて、平成 21 年度東海北信越地区技術講習会・審査会が執り行われました。毎年、静岡県にて開催される本講習会・審査会に、今回も各県より大勢の会員が参加しました。一昨年・昨年に引き続き、総本部技術総局長で「キングメーカー」の異名で知られる空手界の至宝、「世界の香川政夫」師範を始め、総本部指導員の伊志嶺実先生・牧田拓也先生、更には地元静岡県出身の松江肇先生といった超一流の講師陣を迎えての講習会となりました。講習会の冒頭、香川師範より「特別な事をやるつもりはありません。むしろ日頃の稽古をベースに、ほんの少し見直しをする事によって向上を図る事ができるのです」と説明があり、講義が始まりました。基本講習では香川師範自らが手本となり、技の理論と解説がありました。型の部では牧田・松江両指導員が、古典型を中心に、講習が進められ、参加者の中には、熱心にメモを取る先生も見られ、非常に中身の濃い充実した講習会となりました。また、香川師範は全日本ナショナルチームの強化コーチとして、本講習会の翌日にはモロッコで開催される「WKF ジュニア・カデット選手権」に帯同するという、超過密なスケジュールの中、総本部指導員の先生方と共に静岡まで来ていただきました。今後も、本講習会を普段の稽古に活かせるように精進していきたいと考えております。　(レポート：広報部　秋山高士　安倍川支部)

## ■ 天皇陛下即位二十年記念奉納演武■



「天皇即位二十年」「日本武道館開館四十五年」の節目の本年、10 月 10 日に東京・九段の日本武道館にて「日本武道祭」が開催されました。秋篠宮、同妃両殿下御来臨という栄誉ある記念行事となり、凛と張り詰めた空気の中、各種の日本武道の演武が行われ、その真髄が披露されました。空手界からは、数ある流派・会派より我が日本空手松涛連盟が選出され、総本部技術総局長の香川政夫師範をはじめ、金山亨鐘、(裏面に続く)

山口貴史、稲田保久、永木伸児の総本部指導員が両殿下のお見守りの中、みごとな分解組手を披露し、会場からひときわ大きな拍手が鳴り響きました。今を遡ること 45 年前の昭和 39 年に開催された東京オリンピック。その競技運営のため、日本武道の殿堂「日本武道館」が堂々完成しました。以来、様々な日本武道の決戦の場として、幾多の名勝負を見守ってきた日本武道館の 45 周年という年輪に敬意を表すとともに、今後益々の発展を願っております。

## ■県本部主催技術講習会・昇段審査会■

平成 21 年最後となる県本部主催技術講習会・昇段審査会が静岡市北部体育館にて開催されました。今回の荒井徹師範による上級者向けの講習会では、最も重要な部位のひとつである「手首」の、技への適用法や鍛錬の講義があり、丁寧に解説していただきました。午後からは審査会となりましたが、全国的に依然猛威を振るっているインフルエンザのためか比較的受験者が少なめでしたが、気合と熱気のこもった審査会となりました。

| 【少年初段】 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 菊地　武流(律誠館) | 栗田　理生(静岡西) | 富田　菜月(精誠館) | 稲田　千奈(御前崎) | 長尾　龍司(御前崎) |
| 山下　素弘(川　根) | 角替　真樹(将陽館) | 小野　右京(御前崎) | 朝倉　大輔(浜　松) | 川口　慶悟(静岡東) |
| 角替　優太(将陽館) | 和田　一馬(清　水) | 川口　　舞(静岡東) | 栗田　海志(精誠館) | 梅田　凌佑(焼　津) |
| 杉山　諒汰(静岡北) | | | | |

| 【一般初段】 | | 【少年弐段】 | 【一般参段】 |
|---|---|---|---|
| 田嶋　成敏(静岡北) | 山田　　茂(静岡西) | 鈴木絵梨香(静岡西) | 夏賀　則子(精誠館) |

## ■第 8 回静岡市民空手道大会■

去る１１月１５日（日)、静岡市北部体育館において「第 8 回静岡市葵・駿河区空手道大会」が開催されました。今年は３８９名のエントリがありましたが、新型インフルエンザの影響か、欠場者も例年より若干多かったようです。しかし、コート上ではいつも以上に熱い試合が繰り広げられていました。特に一般男子は過去最多の２８名がエントリし、観客に激しい戦いを展開していました。今年は大会プログラムと試合結果から次のような分析をしてみました。**＜エントリ状況＞**エントリ状況は昨年より１名増えただけでほぼ変わらず(延べ 728 名)。全体の中で松涛の占めるエントリは、型 143 名・組手 144 名（型で 37%、組手で 42%）で、型に出場している人は組手にも出ています。全体としては、型 389 名・組手 339 名となっており、型には出場するが組手に出ない選手も若干名いるようでした。この傾向は小学低学年、特に和道流において顕著に現れているようでした。**＜戦績（松涛）＞**男女とも小学低学年において組手が強いのは昨年同様でした。（1･2 年生は男女とも松涛がほぼ独占）しかし、小学 4 年以上の男子（中高一般含む）で組手入賞者は小学 5 年生の 1 名のみに終わりました。型入賞者も中学以上の男子では 1 名（中学生で優勝）のみ。女子については小学高学年については振るわないものの、中学以上については型・組手とも半数以上の入賞者を出しておりました。今大会では、初めて男子高校生の部で松涛のエントリがなく、また全体に占める松涛の割合はほぼ変わらないものの、男子小学生の人数は 10 名強減っています。小学 1～6 年、中、高、一般で、男子は 9 部門、女子は 5 部門、合わせて 14 部門で試合をしています。型は上位 3 名・組手は上位 4 名が入賞なので、型は 14×3＝42・組手は 14×4＝56 の入賞枠があるということになります。今回、松涛では型入賞 15 名、組手入賞 18 名となっており、それぞれ入賞枠からすると型３６%、組手３２%の割合となります。これをエントリの中の松涛の割合（型 37%・組手 42%）と比較するというのは少々乱暴でしょうか。(レポート：遠山貴志　静岡北支部)

## ■第 8 回藤枝精誠館支部大会■

平成 21 年 11 月 29 日に静岡県立武道館にて「第 8 回藤枝精誠館大会」が開催されました。今回も我支部に所属する大勢のメンバー、約百数十名の参加予定がありましたが、本年初頭より猛威を振るっている新型インフルエンザの影響もあり、約 100 名で大会が行われました。午前中の型競技では、家族の方が大勢観戦しているという事もあり、選手達は普段よりも真剣な表情で試合に臨んでおりました。昼休みには、精誠館大会恒例のビンゴ大会が行われました。読み上げる数字を聴いてカードをめくる子供達の顔は、試合中に見せる表情と同じくらいに真剣になっておりま

した。また、それを見ていた普段は強面の先生の口元がほころんでいたのが、とても印象的でした。午後は組手競技、となりましたが、午前の型競技同様エキサイティングな試合が各コート上で展開されました。競技終了後に参加選手全員で豪華景品が当たる「お楽しみ抽選会」にて本大会を締めくくりました。最後となりましたが、大会を支えていただいた師範先生、指導員の先生方やコート係りの父兄の皆様、更には審判を務めていただきました県内松涛連盟の先生方皆様、本大会の成功に心より感謝しお礼申し上げます。 (レポート：伊久美裕一　藤枝精誠館支部)

## ■第 34 回清水空手道スポーツ少年団大会■

平成 21 年 12 月 20 日（日）に清水長崎新田スポーツ交流センターにおいて「第 34 回清水空手道スポーツ少年団大会」が行われました。普段共に稽古をしている仲間同士での試合は、お互いの手の内を知り尽くしているだけに、大人さながらの駆け引きの応酬が見られました。また身内の開催で、和やかな雰囲気の中にもはりつめた緊張感のある大会となり、審判の先生方も息を飲む試合が数多く繰り広げられました。保護者の方々にとっては、年間通じて最も選手との距離が近い大会となり、子供の勇姿を目の前で見ることができ応援にも熱が入っていた様です。今年一年間の集大成といわんばかりに、選手は全力で形・組手を披露しました。特に幼年の団体形は今大会最も注目を浴び、形が極まった瞬間会場内は割れんばかりの拍手喝采に包まれました。大会後は、一年の締めくくりとして恒例の納会・クリスマス会を行いました。今回私は審判として大会に参加させていただきましたが、選手達の道着姿を見ていて、やはりネクタイより帯が締めたくなりました。今年は形・組手に磨きを掛け、選手としても指導者としても一人前に近づける様に頑張りたいと思います。(レポート：西村和樹　清水支部烈士館)

## シリーズ連載　■人の手足は剣と思え■　松涛二十訓より

空手道とは、全身全てを武器化することを述べておく。空手の武器というと拳と掌、それと足程に思っている人が多いが、実際には頭の先から足の爪先まで、これ全てを武器と言っても過言ではない。手首から先だけでも 20 箇所以上もある。

(正拳・裏拳・表拳・平拳・一本拳・中高拳・縦拳)

(一本貫手・二本貫手・四本貫手・背手・熊手・裏熊手・鷲手・平手)

(手刀・背刀・鶴刀・鶏刀・青龍刀・縦手刀)

(拳槌・裏槌・底掌・虎口)

等が挙げられる。また、足首から先だけには

(虎趾・上足底・足刀・内足刀・円踵・足底・背足・馬蹄・つま先)

と言うようなものがある。この他に、腕・肘・膝・肩・頭、さらには腰も使う。こうして見ると全身がことごとく武器であることが分かる。腕の使い方として

(外腕刀・内腕刀・背腕刀)

肘(猿臂=エンピ)については 7 通りの使い分けができる。

(横猿臂・後猿臂・落猿臂)は突技である。

(縦猿臂・前猿臂・回し猿臂・振り猿臂)は打技である。

※　料理人が包丁を使い分けるように、空手を学ぶ者として心掛けることは、時と場合において、瞬時に武器を使い分けできるような「基礎鍛錬」が必要である。(静岡県本部指導部長　荒井　徹)

【編集後記】冬の間はオフシーズン、と思いきや各地で大会やイベントが、こんなにもたくさん開催されている事をあらためて実感しております。本年も静岡県の活力を内外に伝える事ができるように努めていきたいと思っております。取材のご希望がありましたら、広報部まで一報下さい。本年もよろしくお願いいたします。(広報部)